



『筑後市観光協会』事務所移転のお知らせ

こんにちは、筑後市観光協会です。8月1日より、筑後市観光交流施設（山梶窩、山梶窩歴史交流館など）の指定管理を受けることになりました。これにあわせて、観光協会事務所を歴史交流館内に移転しました。これまで管理されてきた「恋の里 結」の皆様と協力して運営を行って参ります。校区民の交流の場としても活用して参りますので、皆さまどうぞお立ちよりください。（電話 53-4229）



【8月からの変更点】山梶窩の入場料が無料となります。／観光バスの駐車が有料となります。（1,000円）／営業時間が17時までとなります。（従来は16時まで）／お土産品を徐々に充実させる予定です。

一般社団法人 筑後市観光協会

水田天満宮の史跡を訪ねて 宮司 宮原 恭盛



水田天満宮正門の赤鳥居（昭和28年12月・千五十年大祭奉賛会奉納）前に、県道を挟んで月読神社が建立されています。月読神社は全国には少なく伊勢神宮外宮・京都松尾大社の別宮として月読神社は鎮座しています。ご祭神月読命（尊）は日本神話の三貴子（みはしらのうずのみこ・さんきし）の誕生で、天照大神・月読命・須佐之男命の一柱で、古事記によれば、伊邪那岐命が黄泉（よみ）の国の穢れを海水で清めた時に生まれたのが三貴子です。伊邪那岐命は天照大神に高天原を、弟の月読命は夜の国を、須佐之男命は海原を治めるように命じました。月読命は目の神・暗闇の守護神、歴（月を読む・月の満ち欠けを教え暦を司る神）・安産の神様として崇拝されています。

現在の月読神社は平成18年5月20日に改築され、記念写真は竣工祭の懐かしい思い出です。例年5月23日には縁日祭が斎行され、崇敬者を始め水田幼稚園の園児達が参拝します。また月読神社は御仮屋とも言われ、10月25日の御神幸祭では神輿が下宮迄の行幸の休憩所となります。境内の御神木大楠は樹齢600年の福岡県天然記念物で、約60年前に火災に遭いながら現在もすくすくと成長いたしており、非常に珍しい幹の大こぶは御神徳の賜です。

